震災と治療ボランティアのエスノグラフィー

早稲田大学人間科学部健康福祉科学科e-school

辻内研究室　　伊東　純一

本研究の枠組み

・**研究目的**：治療ボランティアを通したケアとその意味を考察する

・**理論と分析法**：PTG、臨床リアティー等、語り分析　KJ法

本研究の構成

第1章　治療ボランティアのフィールドノート

第2章　考察

　考察1　ボランティア活動の心的背景

　考察2　被災者の悲嘆反応

　考察3　震災と人々の相互作用

第3章　　まとめ

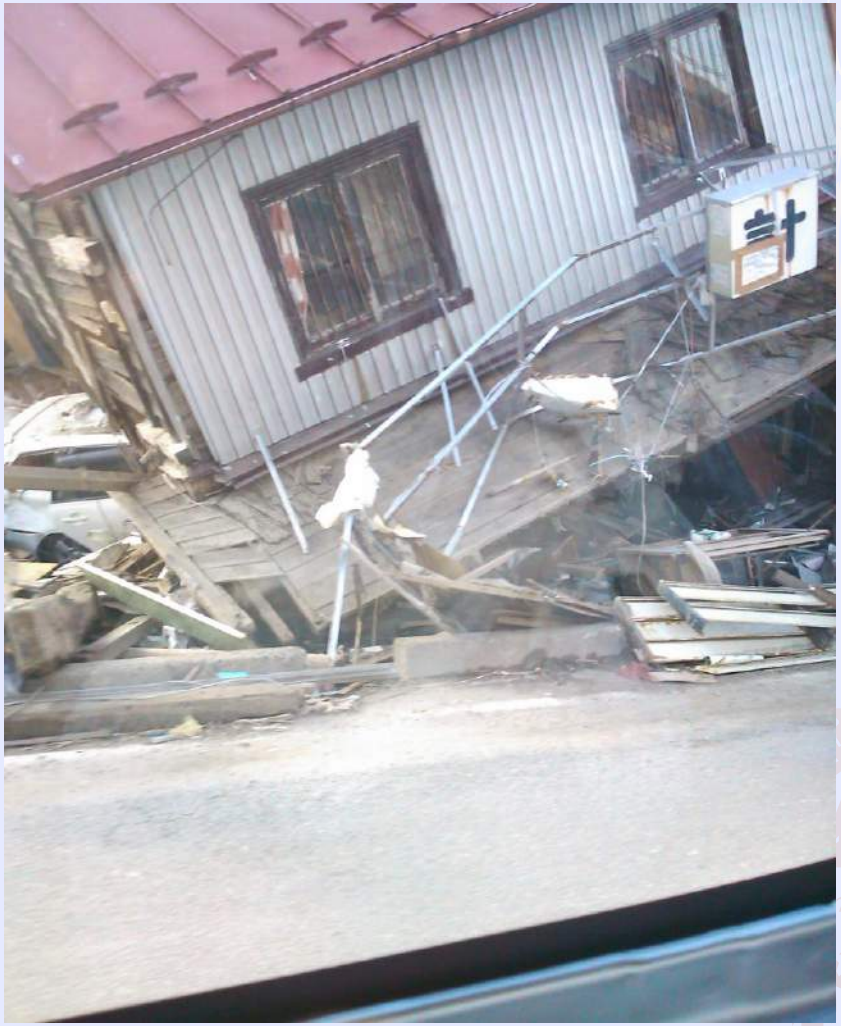
第1章　治療ボランティアのフィールドノート

・3・11　震災と筆者の当事者性

東京の私達も震災の影響で
精神的ストレッサーが種々の
ライフイベントとして蓄積

↓

悶々とした一カ月
被災地の為に行動しなければ
無力感を埋めることができない
被災地でのボランティアを決意



第1章　治療ボランティアのフィールドノート

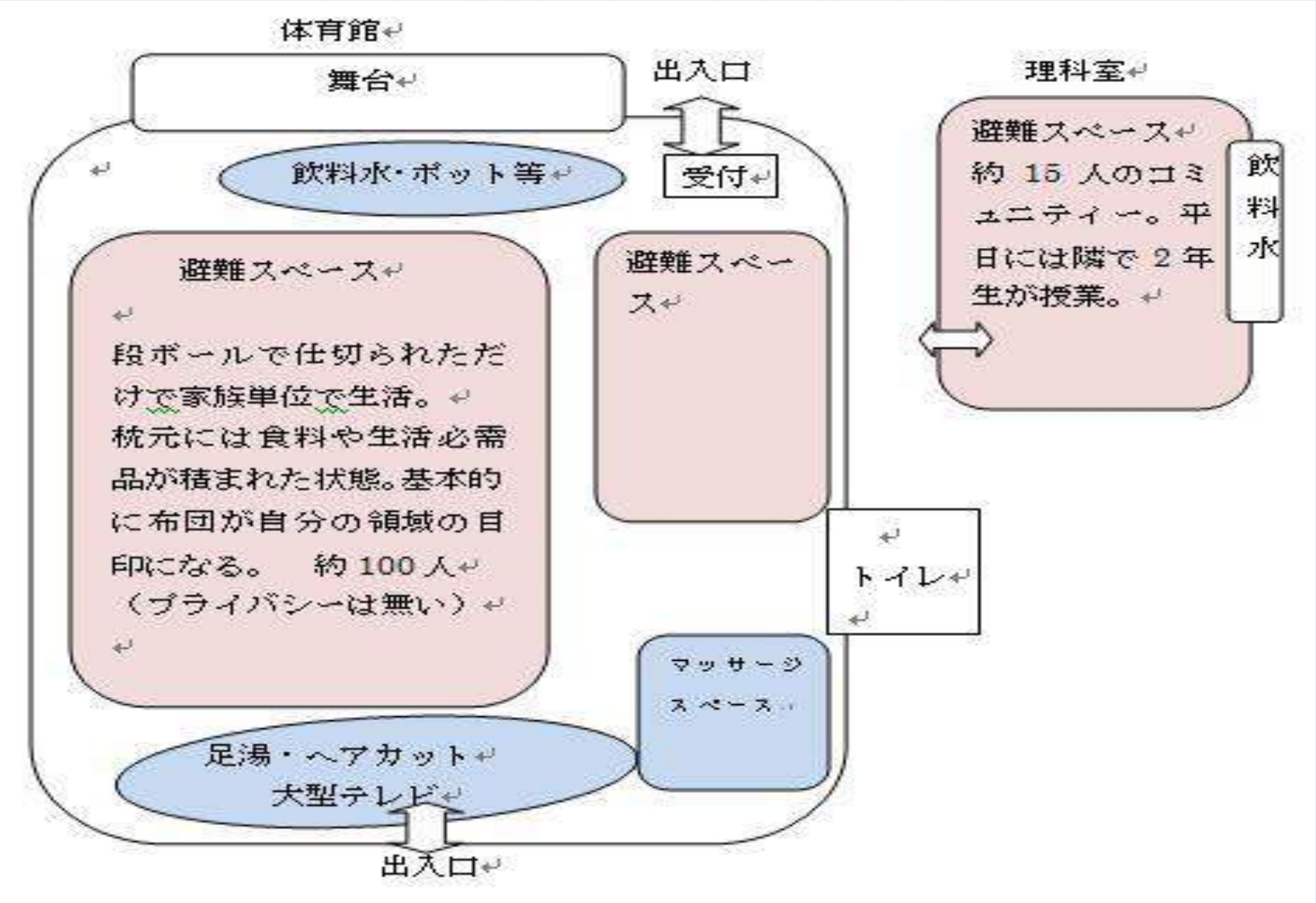
2011年4月24日（日）
午前8時石巻専修大学の
ボランティアセンターで登録

↓

宮城県石巻市蛇田小学校へ派遣
体育館約100人、理科室約15人が避難
一人約30分の治療を15人に施術
身体的苦痛にマッサージ・鍼・整体
（写真は蛇田小学校外観）

第1章　治療ボランティアのフィールドノート

蛇田小避難所概略図



第1章　治療ボランティアのフィールドノート

- 蛇田小被災者の語りから

- **Tさん男性**：息子、娘の3人で避難所生活。母親は親戚のもと。妻はいない。震災時、娘が祖母を家に助けに帰り、近隣の方と協力して祖母を救った。その直後津波が襲い、間一髪逃れた。鉄筋の家は津波にも耐えたが、家の一部が損壊。復旧できるが、津波恐怖により県外へ引っ越す予定。自分は生きている。生きているだけまし。今はそう思って前向きに生きている。
- **Iさん女性**：主人は歩行困難で、津波が来るとき、あきらめてここに残ると言ったが、皆で抱えて間一髪助かった。震災当日、いつもの平穏な時間が急に地獄に変わった。友人は奥さんが目の前で息を引きとり、津波に流されないようロープで身体を縛り遺体を確保した。

（写真は当日の石巻市内のもの）

第1章　治療ボランティアのフィールドノート

2011・5.29（日）

石巻ボランティアS氏紹介で

T氏と出会う

↓

岩手県の山中にある

キャンプ場から約40分

気仙沼市の仙翁寺へ

（写真はT氏と待ち合わせをしたキャンプ場入口）

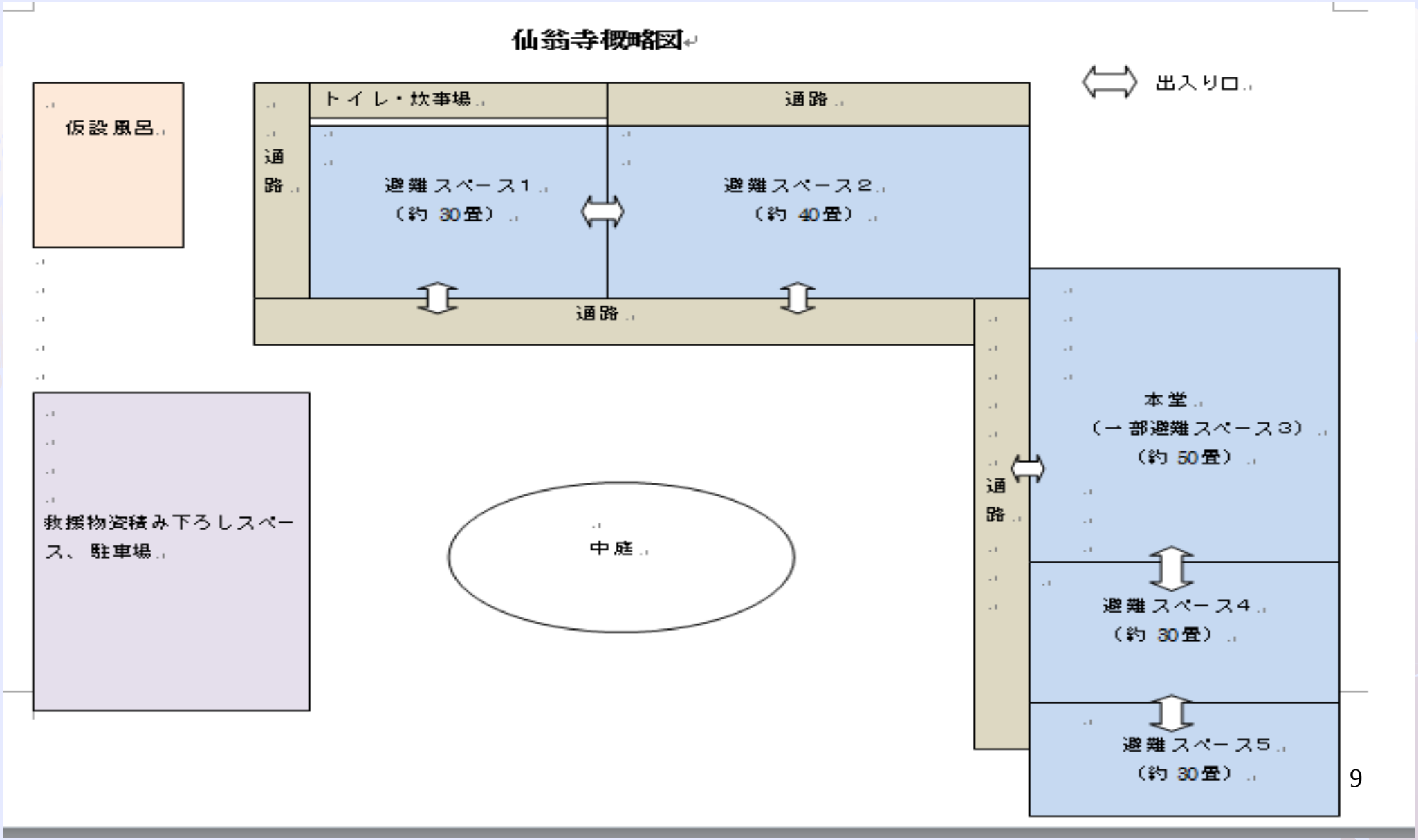
第1章　治療ボランティアのフィールドノート

仙翁寺（せんのうじ）

震災当初は200人以上
2011・5・29現在は約130人
の被災者が避難している

一人約30分の治療を約12人に施術
身体的苦痛に対しマッサージ・鍼・整体

第1章　治療ボランティアのフィールドノート
仙翁寺概略図



第1章　治療ボランティアのフィールドノート

- 仙翁寺被災者の語りから
- **0さん男性**：家は津波で全壊。家は海抜6メートルくらいで、地震発生時は大丈夫だと感じていたが、引き波の強さを見て、高台へ逃げた。高台からすぐのところまで津波が押し寄せた。
- **0さん女性**：津波の時、仕事中で和服姿そのままで逃げた。もし、すぐ逃げていなければダメだった。（以前の街並みが）当たり前の光景が当たり前のように焼き付いている。例えば、「あそこのセブン（セブンイレブン）まで、自転車で行ってきて」と言ったあとに、自転車もセブンイレブンも津波で流されていることを思い出す

（写真は仙翁寺避難所内）

第1章　治療ボランティアのフィールドノート

地元OTさんとUさんの誘い

気仙沼の最も被害の大きな場所へ。全壊した水産加工場の前で、我々にこの匂いを嗅いでくれと言い、自宅前でここが私の家だと指差した。そこには、一部の瓦礫が残っているだけで家は無かった。

強烈な腐敗臭と津波に根こそぎ奪われた気仙沼の街の真ん中に立ち、恐ろしさと虚しさが込み上げ、我々は言葉を失った。

（写真は当日の気仙沼市内地元高校）

第1章　治療ボランティアのフィールドノート
OTさんとUさんの語りから

東日本大震災ではなく
東日本大津波

2011年5月29日現在、気仙沼市の復興は1～5%しか進んでいない。何が一番欲しいって、重機が欲しい。

娘は津波に飲み込まれ、気が付いたら病院のベッドにいた。命はとりとめた。小学校6年生からためていた貯金が全部流された。その後、お風呂に入ることに怯えている。

地震発生後30分間、家族を捜しに戻った人は亡くなった。**家族より、地震や津波の時に一緒にいる人と行動し、まず避難することが大切。皆がこういう共通意識だったら、死なずにすんだ人が多かったんじゃないか。東日本大震災ではなく、東日本大津波。**

（写真は気仙沼の海沿いの地区）

第2章　考察①ボランティア活動の心的背景

・ボランティアは自身の無力感を埋めるための行動
自己満足であるという自虐的省察性の背景は？

↓

①関東近郊の人々における震災後の心的影響としてPTG（Post-traumatic growth=心的外傷後成長）が喚起　（山村　2012）

②ボランティア活動には、他愛精神の高揚、人間関係の広がり、人生への意欲喚起等の援助成果　（高木ら　2003）

先行研究からボランティア活動に関連する上記のような
ポジティブな心的影響がある可能性

第2章　考察①ボランティア活動の心的背景

・筆者のネガティブな思考の背景にあるポジティブな心的背景とは？

①**当事者性（PTG）**：震度5強の揺れ、その後の社会的混乱を経験

②**非当事者性（他愛精神の高揚）**：東北各県の被災地に比べ死に直結するような出来事や甚大な被害を受けていないなどのリアリティー

③①、②の狭間で不安定な心情を行動へと駆り立てる象徴的なリアリティーである「絆」ということば　（分析概念としてのクリーシェ（cliché））　（2008　余語）

考察①の結果

ボランティア活動は個に内在する心的背景と、それを取り巻く様々なリアリティーなどの外部要因が双方向的なつながりをもつことで行動が喚起され成立していると考えることができる。

第2章　考察②被災者の悲嘆反応

・悲嘆反応（グリーフ）とは？　（村上典子　2011）

親しい人や大事なものを喪失した時に経験する複雑な心理的、身体的、社会的反応で当然な人間の感性。

・悲嘆反応に対するケア（グリーフ・ケア）とは？

悲嘆への寄り添い（喪の作業　grief work）援助することをグリーフ・ケア(grief care)と呼ぶ。治療者と被災者の信頼関係には傾聴が重要

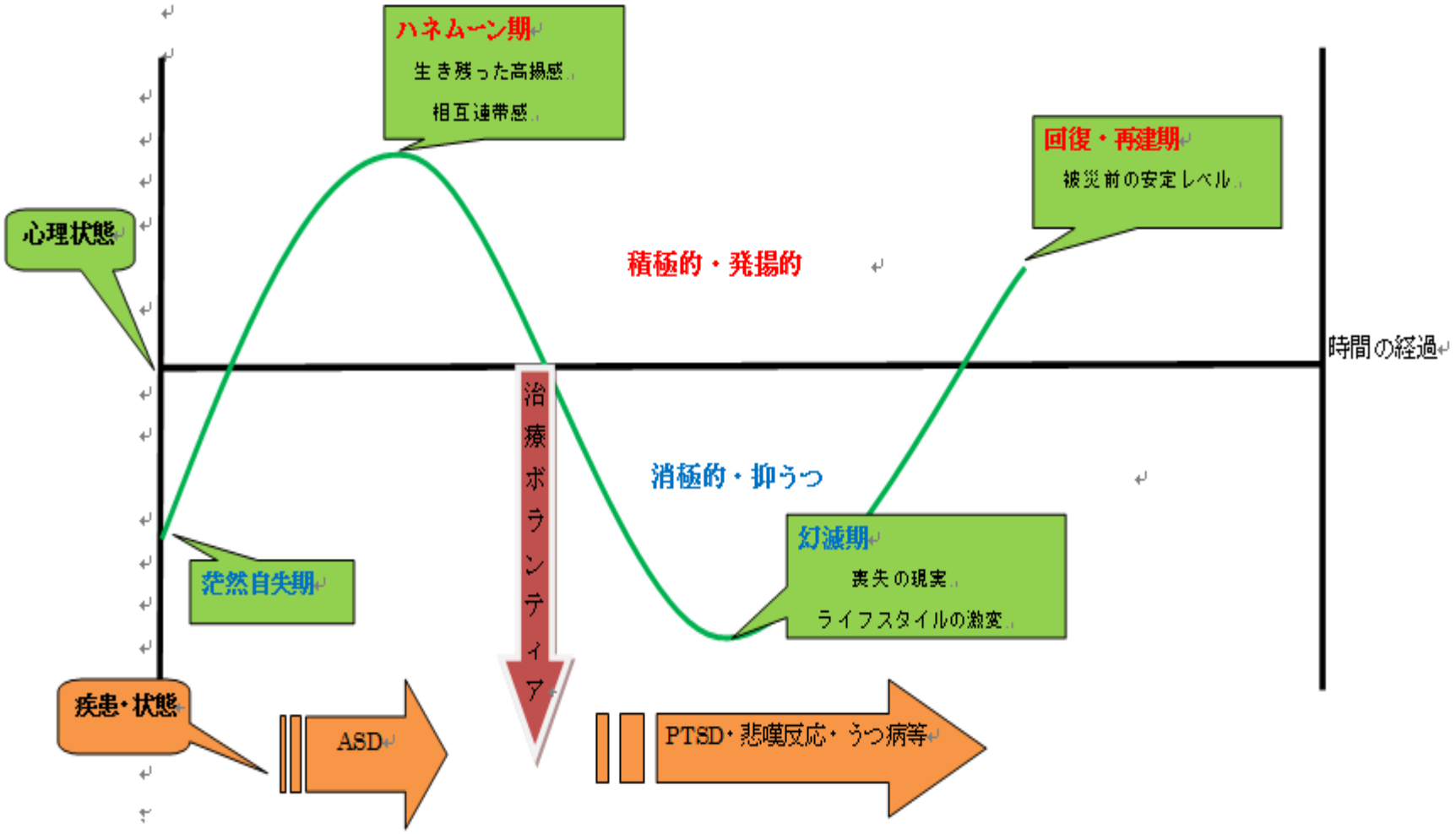
※　大規模災害発生後は一カ月以内に見られる急性ストレス障害（ASD）や、発生後一カ月以降に見られることの多いPTSDや悲嘆反応、うつ病やうつ状態などがある。

※　悲嘆反応に伴う身体症状は緊張型頭痛、耳鳴り、難聴、動悸、消化器症状、腰痛、背部痛、不眠、疲労感等

避難所を訪れた時期は悲嘆反応が出現しやすい（図1）

第2章　考察②被災者の悲嘆反応

図１ボランティア時期と被災者の心理状態の時間的変化と疾患・状態



CNS today, 作成、村上典子氏監修の図（2011）を改変

第2章　考察②被災者と悲嘆反応

・非言語的行動の意義

・コミュニケーションにおける非言語行動は言語行動よりも相手の印象に与える影響が大きい　（Mehrabian 1967）

・グリーフケアにおける非言語的コミュニケーションは励ましの意思表示　（村上2011）

被災者への治療の大部分が非言語的コミュニケーションによる身体的苦痛の緩和。治療者の手による行為と被災者の身体を委ねようとする相互行為である。技術的な意味での傾聴とは異なるアプローチから寄り添いを構築。つらい時期を語るという自然な希求へ。

幻滅期において治療者と被災者が癒しの過程を構築したと考えられる

石巻　Eさん男性治療直後の語りから：

震災時、海でわかめ養殖の仕事中だった。親方に早く車に乗って高台に上がれと言われ、非難した。それから5日間自力で泥沼から拾った缶詰、自動販売機を壊して飲料水を確保して飢えをしのいだ。市役所の対応に憤りを感じている。カキ、ホタテ、ホヤの稚貝は全滅。今年のカキはダメ。石巻のカキは全国に発送されている。また、地震直後、港の中央から沖に向かった船は助かったが、戸惑っていた船は全滅した

第2章　考察②被災者と悲嘆反応

・治療ボランティアから被災者へ

幻滅期の被災者が治療者の非言語的行動によって寄り添い、癒しの過程を構築。

・被災者から治療ボランティアへ

多くのボランティアが自らの現実感とは異なる次元で生への意味を追求している被災者を目の当たりにし、その姿に励まされるという現象を共有。被災者から癒しが与えられたという現実。

考察②　結果

治療者と被災者の双方向性がもたらす過程がケアの相互性を構築することが示唆された

第2章　考察③震災と人々の相互作用

・被災者の語りと人々の相互作用

被災者はボランティアによる支援や多方面からの援助、同じ立場の人間と相互に励まし合いながら日々過ごす。

Kさんの語りや、場の空間性から悲嘆反応の幻滅期における心理状態を同じ立場の人々で相互に支え合う姿を伺うことができる。

OTさんとUさんの語りから、他府県のボランティアなどと交流がある中、被災した人々と他府県から気仙沼を訪れる人の被災地に対して認識するリアリティーの齟齬に気付く。こうした齟齬を埋めることに意味と役割を見出したのは、この震災を経験して得られた人間関係からであると推察。

石巻　Kさん女性の語りから：

海沿いの道通った？私たちの住んでたところは、津波の被害が一番ひどかったところ。そこでもともとこの部屋の皆とは仲が良かったのよ。ね、Nちゃん。

気仙沼OTさんとUさん男性の語りから：

東京の人たちにテレビではわからない、本当の気仙沼の姿をみて欲しい。これを見て、東京の人たちには東京で頑張ってほしい。東京がダメになったら、こっちもダメになる。気仙沼に今度は遊びに来てください。

第2章　考察③震災と人々の相互作用

・震災の影響下における人々の関係性を巨視的に検証

社会的リアリティーとは個人（心理・生物学的リアリティー）を超えた、人々の間の相互作用の世界を意味する。この強力さはひとつの世界をつくり上げる。（A.kleinman 1980）

考察③結果　（図2　参照）

・分析のための社会的リアリティーの3つの区分

①個の心理的リアリティー：　被災地に向かう人々（PTG）・被災者の悲嘆反応

②社会的リアリティー：　震災に対処する家族、社会、制度・意味の体系などの社会的世界

③物理的リアリティー：　東日本大震災による甚大な被害

（④象徴的リアリティー：　「絆」ということば）

第2章　考察③震災と人々の相互作用

図 2 分析のための社会的リアリティーの 3つの区分（A kleinnman 1980 を一部改編 ）

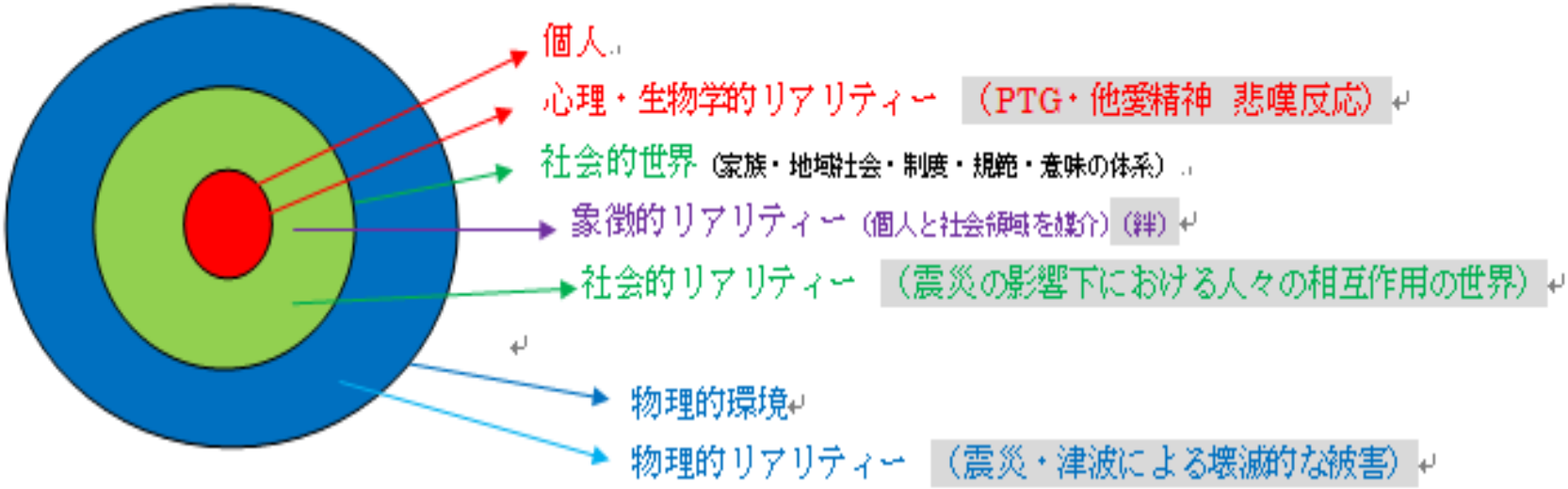
① 個人の内的世界である心理的リアリティー

② 生活体（人間を含む）の下部構造である生物的リアリティー

③ 本質的な社会的リアリティー（social reality per se）

④ 人間以外の環境をつくり上げている物質的な構造と空間である物理的リアリティー

※ 象徴的リアリティー（symbolic reality）は①②と③を橋渡しする



第3章　まとめ

震災における個ー社会の双方向性

・個が内包する心理的リアリティーは、「絆」ということばに代表される象徴的リアリティー等を媒体として社会領域にコミット

絆

・震災の影響下における人々の相互作用の世界（社会的リアリティー）を構築

・筆者（治療者）と被災者をケアの相互性から結びつける

結語

治療ボランティアによるケアは、震災からの復興というひとつの世界を異なる立場から共有しようとした当事者性と非当事者性が、複雑なリアリティーを背景として織りなしたひとつの形であり、一時の癒しの過程として機能する意味が示唆された。

参考文献

村上典子:被災者に寄り添うグリーフケア　CNS today December 2011 (pp19-25)

妹尾 香織・高木ら:修援助行動経験が援助者自身に与える効果 : 地域で活動するボランティアに見られる援助成果 関西大学　第18巻第2号 2003 (pp.106-118)

藤井靖:人間科学各論(心と身体の臨床心理学),2011(第11回pp1－2)

余語琢磨:技術文化論(テクノロジーと現代文化　身体をめぐる技術ー1)2008(pp1-3)

山村恭代:東日本大震災後の復興支援への取組みが個人の心的外傷後成長に及ぼす影響 2012

KleinmanA.: Patients and Healers in the Context of Culture ; An Exploration of the Borderland Between Anthropology, Medicine, and psychiatry of California Press, 1980 (アーサー・クラインマン著, 大橋英寿, 遠山宜哉, 作道信介, 川村邦光(共訳):臨床人類学;文化の中の病者と治療者. 弘文堂、1992

ご質問や内容に関するお問い合わせは下記までお願いいたします

〒183-0056　東京都府中市寿町1-8-11

カナエ整骨院　042-358-1033

早稲田大学人間科学部 e-school　健康福祉科学科　伊東　純一

E-mail: ponsensei@walk-in.jp